

次期一般廃棄物最終処分場候補地選定について



現在の最終処分場
(南区麻溝台)

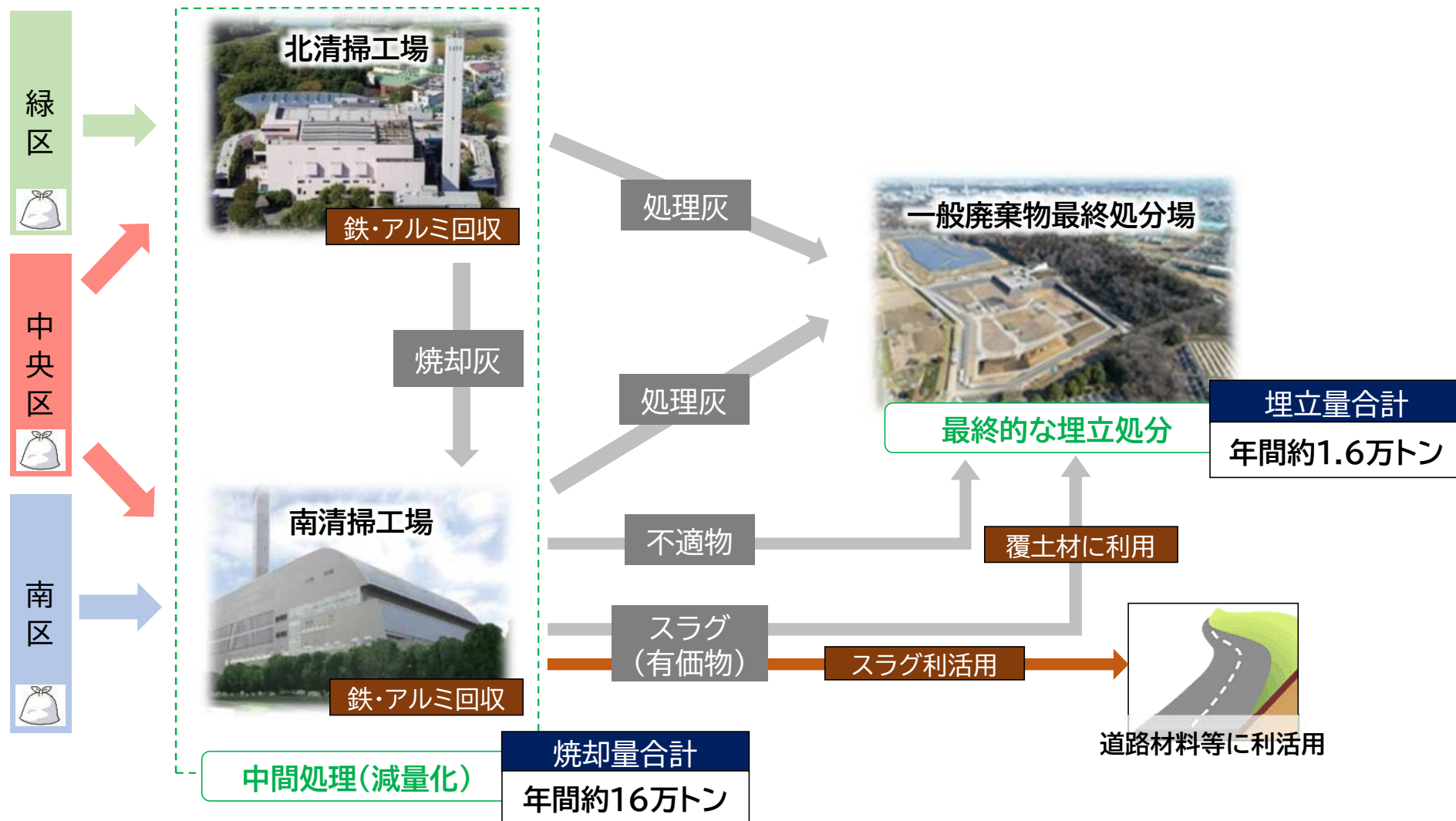
本日お伝えしたいこと

- ①本市のごみ処理施設の現状と課題
- ②次期一般廃棄物最終処分場の最も有力な候補地の選定
- ③将来的な埋立ゼロに向けて

①本市のごみ処理の現状と課題

家庭ごみの処理の流れ

相模原市ごみ処理フロー図 ※各種数字は令和6年度実績値



最終処分場の役割

現在の一般廃棄物最終処分場（麻溝台上空から）

令和5年3月撮影



安定したごみ処理体制を確保し、72万市民の衛生的で安定した生活を維持するためには不可欠な施設

最終処分場に埋立している主な物

①処理灰
(薬品処理)



(令和6年度実績) 約6,000トン

②不適物
(ガラスや陶器等)



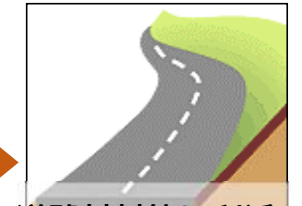
約4,500トン

③スラグ
(JIS認証、道路材にも活用)



約4,000トン

スラグ利活用



道路材料等に利活用
約2,000トン

【埋立量】(令和6年度実績)
年間約16万tのごみを
焼却(中間処理)
↓
最終処分場に
約1万6千tを埋立
(覆土含む)



灰などを埋め立てた後に、土をかぶせている様子

【埋立作業】
・1日約10台の
10tトラックで搬入
・埋立て後に即日覆土

本市の最終処分場の現状

一般廃棄物最終処分場(シゲンジャーパーク)の現状

現在埋立て面(地表面とほぼ同じ高さ)



第2期整備地(平成20年埋立開始当時撮影)



第2期整備地(令和7年9月撮影)

埋立開始時



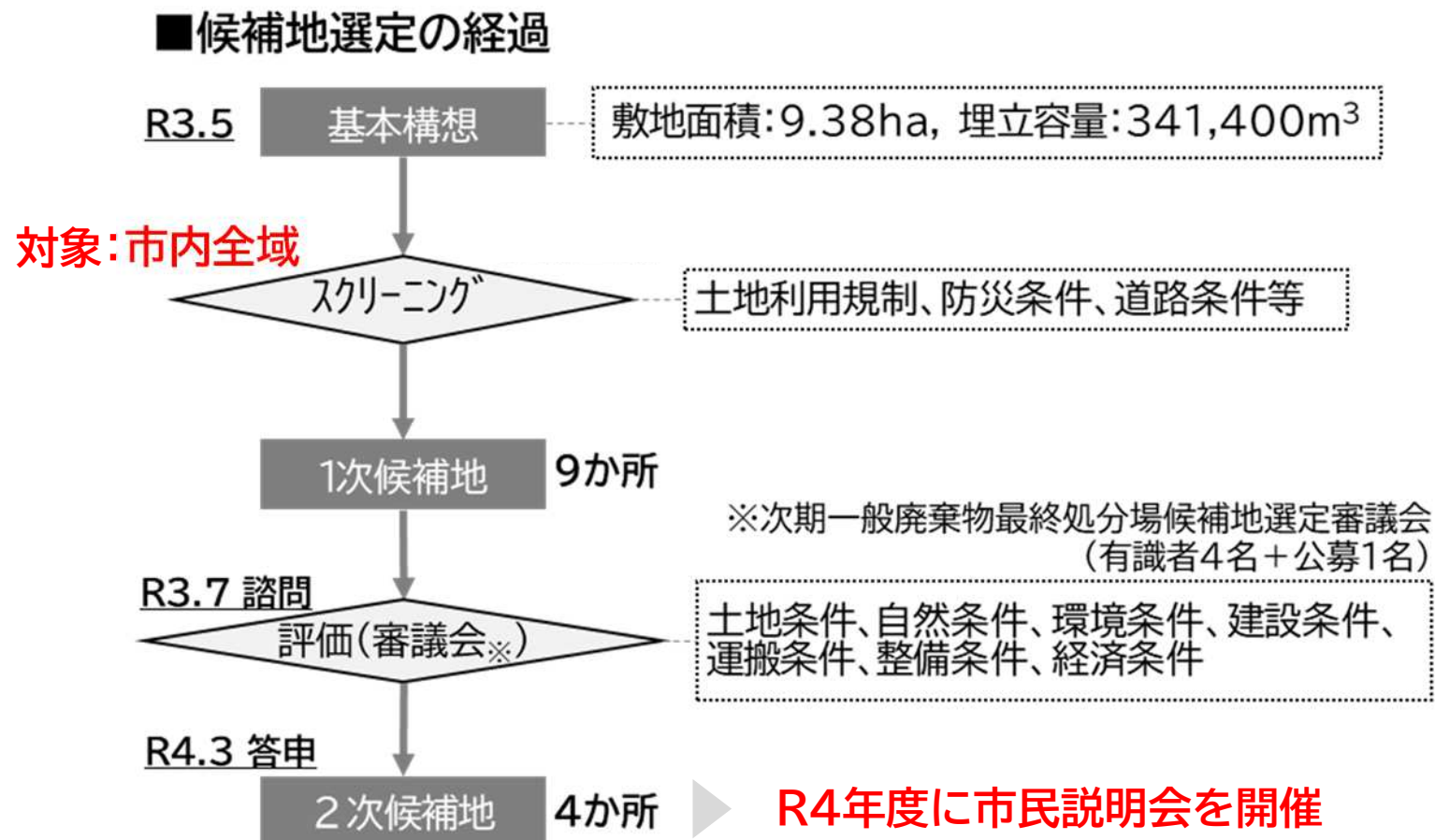
第2期整備地(令和7年3月撮影)

あと11年(令和19年)で満杯になってしまう見込み

新たな最終処分場の整備には、
候補地の選定や用地交渉に長い期間を要する。

②次期一般廃棄物最終処分場の最も有力な候補地の選定

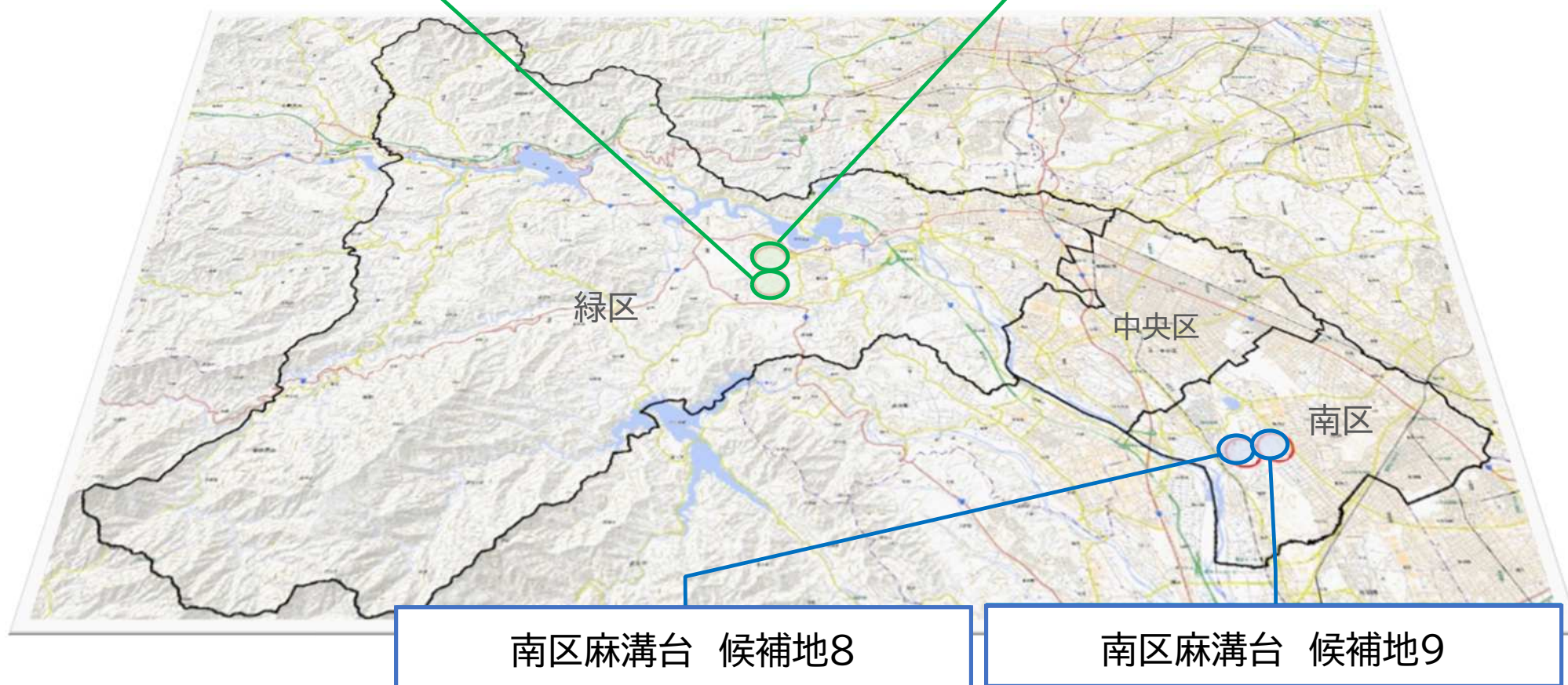
候補地選定の経過



次期最終処分場候補地 4箇所

緑区根小屋 候補地5

緑区根小屋 候補地6



次期最終処分場候補地 4箇所

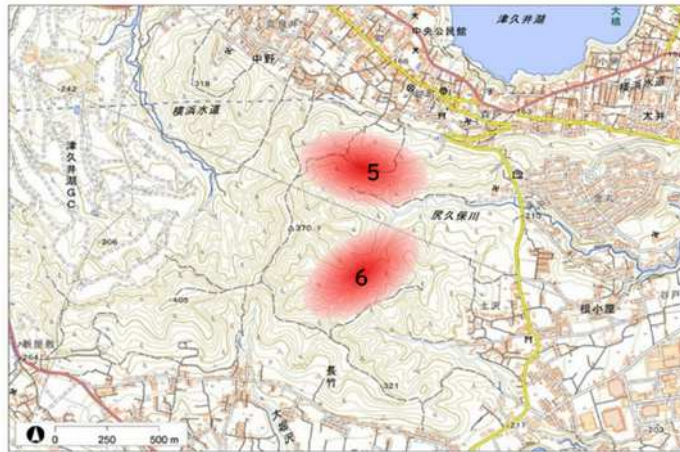
候補地

位置

外観

特徴

根小屋
(5・6)



- ◆候補地5・6
- ・山間地・急峻な地形
- ・用途地域の指定なし
- ・主に水源協定林
- ・候補地間にリニア計画線

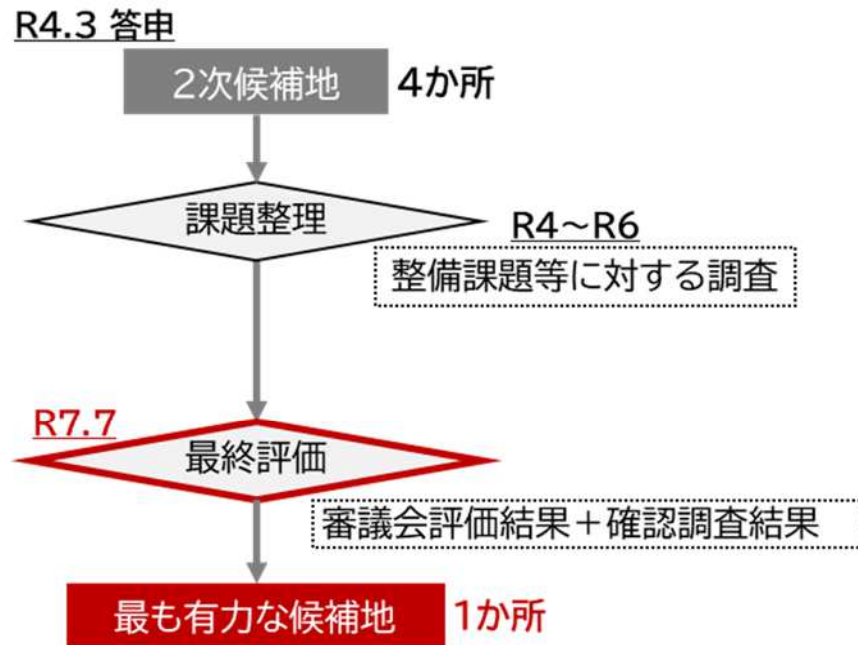
麻溝台
(8・9)



- ◆候補地8・9共通
- ・平地・平坦な地形
- ・市街化調整区域
- ◆候補地8
- ・主に農地
- ◆候補地9
- ・近郊緑地
- ・公園として都市計画決定

次期最終処分場 候補地選定の経過

■候補地選定の経過



■主な調査内容

主な調査内容		候補地			
		5 根小屋	6 根小屋	8 麻溝台	9 麻溝台
R4 (委託)	現地踏査・配置検討 ・整備費等	○ 調査実施	○ 調査実施	○ 調査実施	○ 調査実施
R5 (直営)	公共下水道への 処理水放流	○ 調査実施	○ 調査実施	調査不要	調査不要
R6 (委託)	堆積物・地中埋設物 の把握	調査不要	調査不要	○ 調査実施	○ 調査実施

■最終評価項目

評価項目	評価指標※
土地条件	土地利用状況、土地所有状況
自然条件	地形の状況、希少動植物の確認状況、植生自然度
環境条件	取水への影響、公共下水道の状況、民家の存在、 <u>森林CO2吸収減少量</u>
建設条件	防災に係る法規制等
運搬条件	運搬効率、 <u>運搬CO2排出量</u>
整備条件	整備計画の容易性(整備課題に対する調査)、将来計画の可能性
経済条件	施設整備費(用地取得費含む)、維持管理費

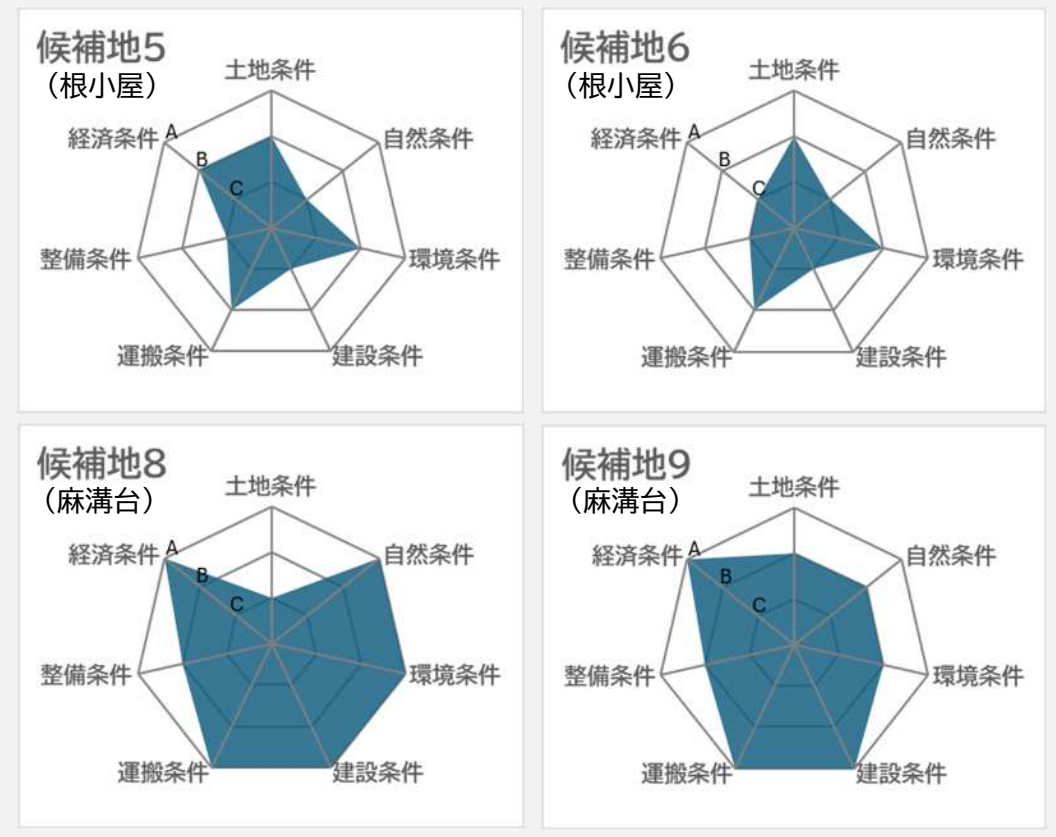
※下線なし(R3審議会時の指標)+下線あり(R4以降の調査で追加した指標) 14

最終評価(レーダーチャートによる比較)

令和3年度の審議会で審議した評価指標の結果、及び令和4年度以降の確認調査等を基に更新・追加した評価指標の結果を用いて、評価条件毎に評価(A～C)を実施し、総合評価により最も有力な候補地を選定する。

評価項目	評価指標
土地条件	土地利用状況、土地所有状況
自然条件	地形の状況、希少動植物の確認状況、植生自然度
環境条件	取水への影響、公共下水道の状況、民家の存在、森林CO ₂ 吸収減少量
建設条件	防災に係る法規制等
運搬条件	運搬効率、運搬CO ₂ 排出量
整備条件	整備計画の容易性、将来計画の可能性
経済条件	施設整備費(用地取得費含む)、維持管理費

■最終評価(レーダーチャート)



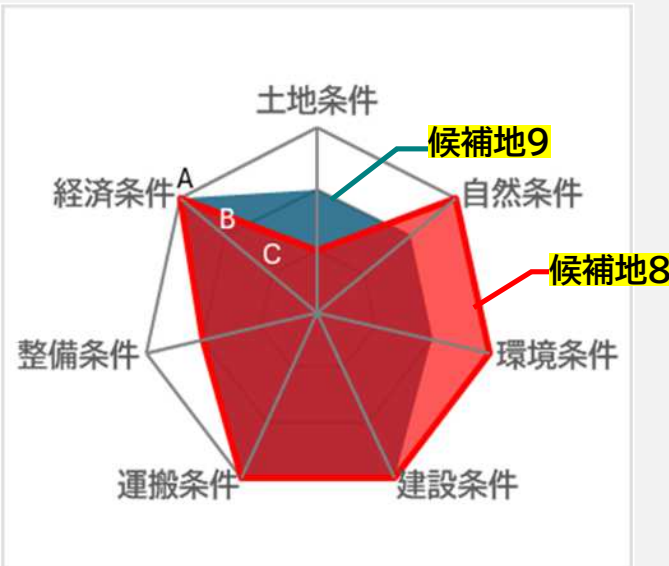
各候補地を比較すると、相対的に候補地8, 9(麻溝台)に優位性がある。

最終評価

■候補地5,6(根小屋)を選定する場合の課題

- ・大半が水源協定林であり植生自然度が高く、**大量の樹木伐採が必要**である。また、森林CO₂吸収量も減ってしまう。
- ・水源地域のため新たな**下水道接続が必要**となるが、**下水道供用区域外のため困難性が高い**。
- ・**搬入道路(約1km)の整備**を要する。
- ・**整備費用が高額**である。
- ・清掃工場からの距離が遠いため、運搬時のCO₂排出量も多い。
- ・土砂災害特別計画区域(土石流)に該当もしくは隣接しているため災害のリスクが高い。

■候補地8,9(麻溝台)の比較



全体の評価は拮抗している状況であるが、
候補地9は候補地8に比べ諸課題が多く、解決の困難性が高いことや、
候補地8は唯一樹木伐採がなく自然環境への影響が少ないこと等から、
候補地8を「最も有力な候補地」とする。

■候補地9を選定する場合の課題

- ・**公園として必要な土地であるため、都市計画決定がされている。**
(公園の整備が更に遅れてしまう)
- ・首都圏近郊緑地保全区域に指定されており、**大量の樹木伐採が必要**である。
- ・地中に雨水幹線が横断しており、配置に制約がある。
- ・希少動物の営巣が確認されている。
- ・敷地面積が比較的狭い。

最も有力な候補地

■最も有力な候補地8(現最終処分場の西側の区域)

位置・範囲



概要

候補地面積	約12 ha (基本構想:約9.4 ha)
土地の状況等	平地・平坦な地形
現在の土地利用状況	主に農地 (第1種・第3種、雑種地)
土地所有状況(地権者数)	約100名(約170筆)
民家の存在(300m圏内)	約210棟
防災に係る法規制等	該当なし
公共下水への処理水放流	可能(供用区域内)
堆積物・埋設物の存在	堆積物 5山確認 埋設物 可能性低
処分場整備費(R7算定)	約88億円(税込)
維持管理費(R7算定)	約1.7億円(税込)/年 ※埋立期間15年間

※いずれの候補地も地域の方にとって大切な土地であることを踏まえ、最も有力な候補地の周辺の地域振興策を考えてまいります。

跡地の活用事例

【現在の最終処分場】

○埋立ての終了した第1期整備地の跡地は、現在、太陽光発電施設として地球温暖化対策に役立っています。(H26～、20年間)

将来的には第2期整備地も含めて、公園用地として活用する予定です。

地域の皆様などのご意見も伺いながら活用方法を検討していきます。

【制約など】

○埋立後の土地を活用するため、平場面積が少ないことや杭が打てないため設置できる建物に制限がありますが、各自治体では地域の皆様と協議のうえ様々な活用がされています。

【他市等の跡地活用例】



八王子市戸吹スポーツ公園(スケートパーク、サッカーラグビー場等)

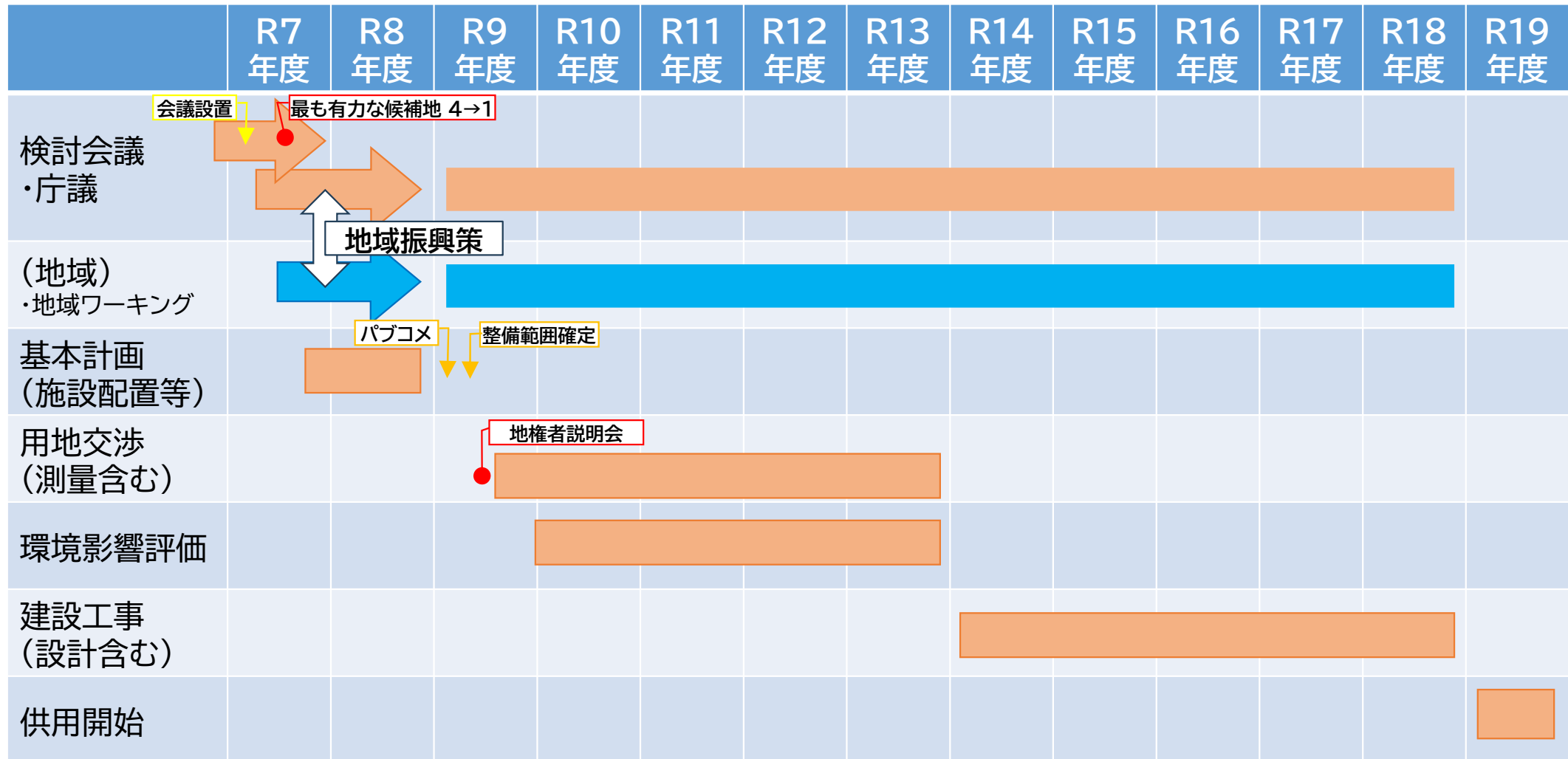


千葉市民ゴルフ場

次期最終処分場の整備スケジュール(案)

R8.2.1時点

※事業の進捗により変更することがあります。



③将来的な埋立てゼロに向けて

将来的な埋立ゼロに向けて

■本市における候補地選定

【実情】

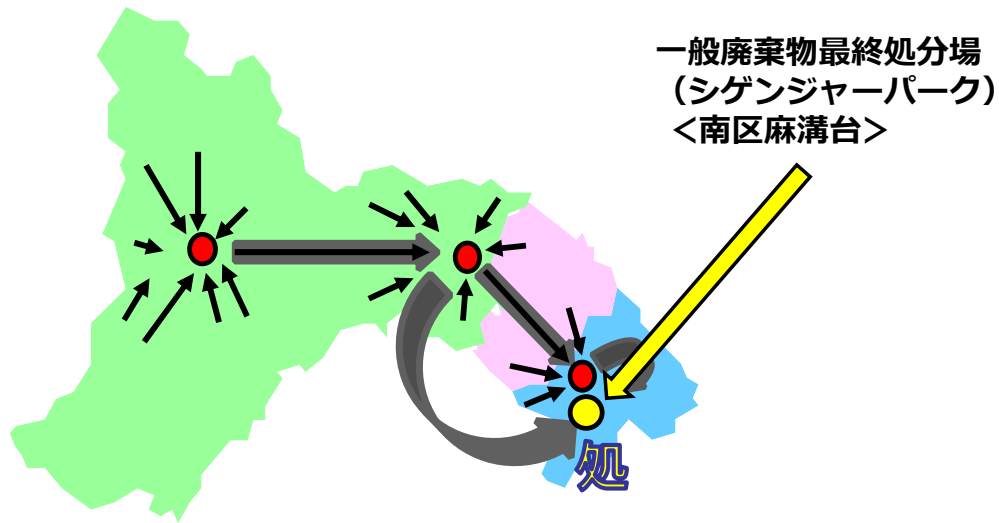
- ・候補地が全市的に少なく、どこにでも整備できるものではない。
- ・特定の地域に負担がかかっている。



【将来】

次の最終処分場が稼働している期間に、最終処分場に頼らない持続可能な未来
「埋立ゼロ」を目指すためにごみの減量化及び資源化に取り組む。

一般廃棄物最終処分場整備による地域負担（麻溝地区の例）



- ・昭和54年から現在まで最終処分場があり続けており、次期最終処分場の最も有力な候補地になっている。
- ・麻溝地区には清掃工場も立地している。

特定の地域に負担が掛かっている状況

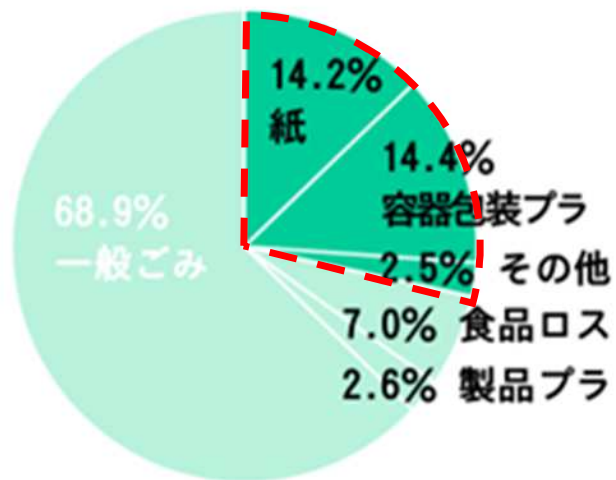
市民全体が課題として認識し、
ごみを減らしていくことが大切

市民の皆様が身近に取り組めること(4Rの推進)

ごみ集積場所に出された
家庭ごみの中には、まだ

30%の資源が
含まれています。

■ 資源化できるもの



家庭ごみを調べた結果(令和6年度)

Refuse (リフーズ)

不必要なものは買わない、使わない

- ▶ 買い物にはマイバックを
- ▶ 割りばしや使い捨てのスプーンは断る
- ▶ 買い物時過剰包装を断る
- ▶ 買い物は計画的に



Reduce (リデュース)

ごみになるものを減らす

- ▶ 食べ残しをしない/食品を食べきる
- ▶ 詰め替え商品を買う
- ▶ 生ごみは水切りをする



Reuse (リユース)

ものを繰り返し使う

- ▶ フリーマーケットやリサイクルショップを利用する
- ▶ 壊れたものは修理して使う
- ▶ マイボトル、マイはしを使う



Recycle (リサイクル)

再び資源として使う

- ▶ ごみと資源(カン、びん、古紙等)は、分別して出す
- ▶ 生ごみを堆肥化する



相模原市では4Rを推進

「混ぜればゴミ、分ければ資源」を合言葉に
さらなるごみの減量化、資源化へのご協力をお願いします。

市民の皆様が身近に取り組めること(具体例)

お菓子等の空き箱と牛乳パックを分別して
資源にすると約30～40グラムの削減



レジ袋を辞退すると
約7グラムの削減



マイボトルを利用すると
ペットボトル1本分の
約33グラムの削減



生ごみを手で絞った場合、
約10%の減量化



生ごみは約100グラム/人・日なので、
約10グラムの削減



相模原ごみDE71大作戦

マスコットキャラクター「レモンちゃん」

☆家庭から出るごみの量を1人1日あたりレモン1個
(約100g) 分減量することを目標にしております

シャンプー・化粧品など
詰め替え製品を使うと
約40グラムの削減



食品ロスを減らす取組み(具体例)

買い物前に

1. 冷蔵庫をチェック

まだ食べられる！

2. 消費期限と賞味期限の違いを知る

食料を無駄にしない

3. 調理方法を工夫

買い物時に

4. てまえどり

会食時には

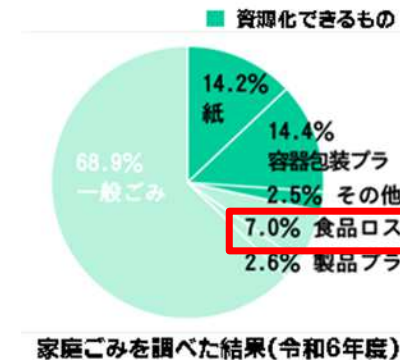
5. 3010(さんまるいちまる)運動

食べ切れない時は

6. mottECO(もってこ)

使わない食材は

7. フードドライブ



すぐに食べるなら、手前をえらぶ。
『てまえどり』
にご協力ください。



ごみ減量の効果

目標の1人1日100g減量でこんな効果が！！

100gは
レモン1個分



ごみ処理経費削減



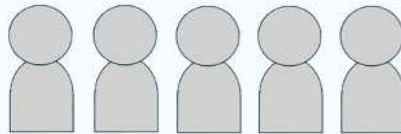
1年間で約7～8億円
(※1)

ごみ減少量



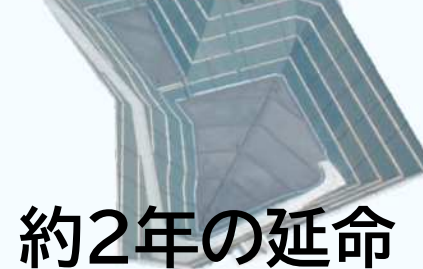
年間 26,000トン
ごみ収集車約13,000台分

CO₂削減



年間 13,000トン
1年間で約36,000人が排出するCO₂量

最終処分場延命



約2年の延命

(※1) ごみ処理原価(処分費)から算出

市域内での将来的な埋立ゼロに向けて

(これまでのごみ処理)
ごみの発生

家庭:ごみの減量化・資源化



♻️ 徹底した4Rによりごみを出さない

- ・プラスチックごみの分別回収
- ・生ごみ・食品ロス削減
- ・4Rに関する情報発信・啓発推進
- ・有料化・戸別収集(検討中)

清掃工場(焼却・溶融)



●焼却・溶融後に残るもの(令和6年度実績)



溶融スラグ
(人工砂)

約6,000トン



不適物
(金属、ガラス、陶器)

約4,500トン



処理灰

約6,000トン

灰等の埋立処分



灰等の全量資源化

●溶融スラグ →

道路資材等に利用

約3,000トン



●不適物 →

ふるい分けにより
金属回収し、有価で売却

約1,000トン

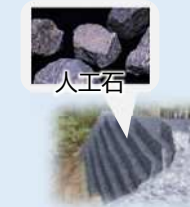


●不適物(金属以外)

●処理灰 →

民間施設にて
建築資材等へ資源化

資源化委託量: 約12,500トン
(約10億円)



ご清聴ありがとうございました。